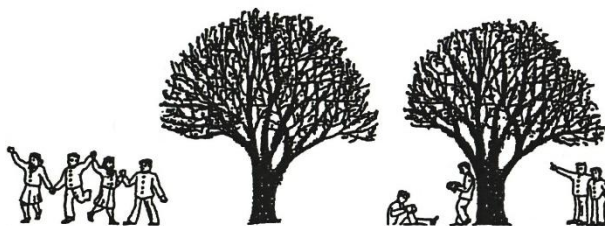


2本のケヤキ

第167号 (令和8年2月4日)



りょう こわ SNS利用の怖さ

ふとくでいたすう かくさん だれ じんせい か
—不特定多数への拡散が誰かの人生を変えてしまう—
こんかい とうち ぎけんない こうこう はっせい せいとかん ぼうりよく
今回は、栃木県内の高校で発生した生徒間の暴力
じあん しょうす さつえい どうが が SNS で拡散された
できごと みな いっしょ かんが おも
出来事について、皆さんと一緒に考えたいと思います。

SNS は日々の生活を豊かにし、楽しむためのツールで
す。しかし、一歩使い方を間違えれば、他者を深く傷つけ、
未来をも一変させてしまう恐れがあります。あらためて
「SNS との向き合い方」について、心に留めてほしいこと
を伝えます。

【生徒の皆さんへ】

この問題を「遠くの学校で起きた無関係なこと」ではな
く、「自分事」として捉えてください。スマートフォンの普及
により、私たちの日常のすぐ隣には、常に大きな落とし穴
が潜んでいます。被害者にも加害者にもならないために、
以下のことを正しく理解してください。

○「撮影・投稿・拡散」は加害行為である

目の前でトラブルが起きた際、スマホを向けて撮影し、
それを SNS に投稿・拡散することは、加害行為です。
「面白いから」「悪いことをしている人をこらしめたい」と
いう心理があるのかもしれませんが、暴力の様子をネット
に流すことは、被害者にとって生涯消えない「二次加害」
となります。たとえ匿名であっても、個人が特定されれば、
当事者双方をさらなる窮地に追い込むことになります。
一度拡散された情報は完全に消すことはできません。
「撮る人」「広める人」も同じ加害者になってしまいます。

○本場の正義感とは何かを考える

拡散された動画を見て、当事者を特定し、誹謗中傷を
浴びせる行為が世の中で見られます。自分では「悪を
正したい」という正義感のつもりでも、当事者は多くの
人から非難され大変な精神的苦痛を受けます。ネット上の
情報は、すべてが真実とは限りません。一部の情報だけで
安易に批判することは、決して正義ではありません。

○トラブルが起きた時、どうすればよいのか

- ・まず、その場で止める（直接が難しい場合は、すぐに
教員や近くの大人に助けを求める）。
- ・面白半分には撮影したり、投稿したりしない。
- ・流れてきた動画を、安易に保存・拡散しない。
- ・不適切な投稿を見つけたら、信頼できる大人（教員や
保護者）にすぐに相談する。

【保護者の皆様へ】

この機会に、ご家庭でもぜひ「我が家のルール」や
「SNS のリスク」について話題にしてみてください。お子
様がトラブルの当事者（被害者・加害者）にならないよ
う、フィルターをかける、利用時間を確認するなど、見守り
をお願いいたします。

は た ち い わ かい 二十歳を祝う会

1月25日（日）、本校体育館において「二十歳を祝う
会」が開催され、令和5年度卒業生19名が元気に参加
してくれました。

式典では、卒業生一人一人から頼もしい近況報告が
あり、当時担当していた教職員からは温かいお祝いの
言葉が贈られました。在学時の懐かしい映像を
振り返ったり、ビンゴゲームを楽しんだり、会場は終始
笑顔に包まれ、再会を喜び合う素晴らしいひとときとなりま
した。卒業生の皆さんの、今後のさらなる活躍を心から
応援しています。

